

【次第】

1. 校長挨拶
 2. 校長より
 3. 各分掌より(教務部・生徒支援部・進路支援部・人権教育推進委員会)
 4. 協議・意見交換
 5. 会長より
 6. 事務局より
-

1. 校長挨拶

今年度は規定が変わったことも関係し、新型コロナウイルス感染症による休業はなし。行事はほぼ予定通り実施。新型コロナウイルス感染症の影響を受けている生徒たちが休みがちになっている。また、遅刻者が多いため、欠課時数が多く心配している。

2 校長より

ア) スクールミッションについて

教育庁より各校での作成が求められている。

学校経営計画は約3年の周期であるが、スクールミッションは約10年と長い周期を念頭に作成する。

学校の理念である「自律・自主・創造」を取り入れつつ、野崎高校の人権教育を絡め、生徒の状況を鑑みながら教育方針を決定していく。この後の協議にてご意見いただきたい。

イ) 再編整備の状況について

来年度の募集定員は例年通り240名。

近隣の府立高校では募集定員が減少している学校や、募集停止の学校がある。

現中学3年生の本校への志望度合いは減少傾向。

本校の機能統合による整備状況として、会議室を多目的ルームに変更し、エアコンやプロジェクター等を配置予定。

ウ) 通級指導教室について

「Self-reliance (自立)」、「Workshop (少人数の自主的な学習会)」、「Activity (活動)」、「No-stress (ストレスがない)」から頭文字をとりSWANと名付ける。

原則、2年生から放課後に50分程度行う。大東市の通級ともほぼ同じイメージである。

3. 各分掌より

ア) 生徒支援部より

- ・遅刻の指導 遅刻が多い。中学校時代に不登校の生徒が多い。生徒にどうしたら遅刻が減らせることができるかアンケートを実施。遅刻はだめだと感じているが、重大に捉えていない生徒もいる。

1年生に遅刻者が多く、遅刻も含めたルールの定着を図っている。

- ・体育大会 今年度は保護者の入場制限をしながら実施した。生徒は応援団を中心に前向きに体育大会に取り組んでいた。

- ・文化祭 オープニングフェスティバルにて「コロナでできない分、(来年の文化祭について) 1, 2年生は今年の文化祭を超えてほしい」と3年生が発言していた。
- ・行事の移動 体育大会と文化祭を2学期に実施していたが、来年度は体育大会を1学期、文化祭を2学期として、1つ1つの行事に集中できるよう検討している。

イ)進路支援部より

- ・今年度の就職の状況として、求人が600社ほどあり、就職の1次試験内定率が約8割となった。
- ・今年度の進学状況として、進学の中ではAO試験を利用した専門学校が多く、指定校推薦も順調に合格している。公募推薦で大阪産業大学に合格している。

ウ)教務管理部(総務)より

- ・チャレンジ野崎を11月19日に実施。生徒は昨年度とほぼ同数の113名で、保護者は昨年度の倍以上の39名が参加した。中学校数は58校とかなり増加し、大阪市や東大阪市からの生徒が増加した。昨年度のチャレンジ野崎に参加した生徒の半分ほどが本校に入学している。
- ・チャレンジ野崎を手伝う在校生が減少した。また、今年度は中学校を訪問するPR隊も減少した。本校をアピールしてくれる生徒が少ないのは残念である。

エ)人権教育推進委員会より

- ・スクールミッションにもある通り本校は人権教育を大切に進めている。
- ・差別発言に関しては、ここ3年ほどで減少傾向。年度当初になぜそのような言葉を使ってはいけないのかを伝えることにより、生徒は理解している。

4.協議・意見交換

ア)スクールミッションについて。

委員より

- ・文部科学省から全国共通して求められたものであり、毎年作成している学校経営計画とほぼ同じとなる。
- ・10年間の野崎高校がめざす学校と同じ内容になるので、学校経営計画をスクールミッションに落とし込めばよいのではないか。
- ・野崎高校がこれから何をしていくのが大切であり、従来の学校教育計画が大切である。
- ・「野崎高校で頑張りたいな」と中学生に思ってもらえるよう行動しなければならないし、各分掌の気持ちが乗るような内容になって欲しい。
- ・茨田高校との機能統合により、野崎高校で茨田高校の教育内容がどのように落とし込まれているのか記載が必要ではないか。国が何と言おうが学校によって全然違うので、その学校に合う形を模索してもらえればよい。
- ・「生徒一人ひとりを大切に作る学校」でよいと思う。
- ・次年度を対象にしたものであるため、茨田高校の要素をなにかいれるべきである。
- ・「生きる力」「人間力」などのキーワードを入れていくのはいかがだろうか。

校長より

- ・SDGsがどこの学校でもキーワードとして入っている。本校のキーワードとしてはコミュニケーション能力を高める活動や「キャリア教育」や「地域連携」としている。野崎高校は人権教育を行っており、茨田高校では「コミュニケーションコース」が存在した。その継承や職員研修をして、ライフスタディの授業でコミュニケーションワークとし各学年で取り入れていく。

イ)遅刻・欠席

委員より

- ・就職が決まったら、気が抜けたのか学校に来ない生徒がいる。卒業できなかつたら、身も蓋もない。
- ・生徒と先生の考えを聞き、思いの相違を減らして、最善を見つけるべきである。

- ・学校が楽しいと思わないと厳しい。イベントを増やすことや体育大会や文化祭の時期を分けるのは良い。
- ・入学してすぐの1学期は学級で急に仲良くすることは難しい。しかし、行事をきっかけで仲良くなるので、いい間隔で行事をすれば生徒は育つと思う。
- ・遅刻は家庭での協力が大切である。家の方でも声掛けしてもらえると効果あると思う。

ウ) チャレンジ野崎

委員より

- ・高校が多くて、どんな学校なのかがわからない中学生が多い。どこの高校へ行こうかと考えたら、知っている近場の学校しか視野に入らない。
- ・ネットやホームページなどももっと活用するべきである。アピールが大切で、アンケートでも怖いイメージあるようで、イメージを回復させるのは難しい。楽しい学校とのイメージをつけると希望者が増えるので、いい案がないか先生や生徒からアピールする方法を聞いてやってみて、だめなら次の方法を使うなどすればよい。

エ) 進路関係

委員より

- ・公務員試験の希望や対策講座はあるのか。

教員より

- ・個別に対応で対策講座も行っている。去年は志望者がいたが、専門学校に通い試験を受けるとしている。

オ) 通級

委員より

- ・高校2年生での開始と聞いたが、希望があれば1年生時からの入級が望ましいのではないか。

教員より

- ・府内の通級がある10校の内、9校が2年生からとしている。単位を認定することを踏まえて、選択授業がある2年生からとしている。生徒の様子や中学校からの生徒支援計画を見て実際の支援は1年生からでも個別に行うことは可能である。

カ) 在校生の遅刻減少

委員より

- ・生徒にとって授業が魅力的になっているかも左右する。高校に来ている時点で多少は勉強に意欲があり、0ではないように感じる。授業アンケートの8. 9番めの項目（私は授業に興味・関心を持つことができた、と感じている。私は授業を受けて、知識や技能が身に付いた、と感じている。）がどういう結果になっているのかを再確認するべきである。

5. 会長より

委員の話をまとめると、生徒は遅刻が多いことはダメなことはわかっている。小中学校時代に不登校であった生徒が学校に登校したなら、「よう学校来たな」と、ほめる。複雑な家庭やヤングケアラーの生徒の遅刻と、オール（夜通し）で遊んで遅刻してきた生徒は遅刻であっても中身が違う。ヤングケアラーの生徒はほめてやる必要があるが、遊んでいる生徒は指導する必要がある。しかし、生徒は「なんであいつは怒らないんや？」というから難しい。

人権教育においては、当時者が高校時代などの苦労したことに加え、その後努力したという話に、進路指導をからめていけば面白いと思う。

6. 事務局より

次回は2月中旬を予定。
